

令和4年9月22日

南アルプス市議会
議長 飯野 久 様

厚生文教常任委員会
委員長 村松 三千雄

厚生文教常任委員会所管事務調査報告書

本委員会は、市が実施する事務事業「リサイクル推進事業」について所管事務調査を行うことを決定し、令和4年6月17日の本会議において、閉会中の継続審査とすることを議決しました。その後、委員会を開き調査した結果について、次のとおり報告します。

1 調査日

令和4年6月20日 事業の調査研究
令和4年6月30日 事業の調査研究
令和4年7月13日 事業の調査研究・委員間討議
令和4年7月22日 担当課との協議
令和4年8月 4日 委員間討議・総括

2 調査概要

本委員会では、当事業について本市の現状を確認するため、担当課から関係資料の提出を求め、調査を行った。また、委員会による調査だけでは不明な点もあったため、担当課から説明を求め、現状を確認した。その後、委員間討議を経て、評価結果をまとめた。

3 調査結果

リサイクル推進事業は、限られた資源を有効に使い、ごみの発生を抑えて、環境負荷を少なくするために、極めて必要性の高い事業である。

また、ごみの減量化や再資源化のため、資源回収センターを市内3か所に設置するなど、市民サービスの向上に努めており、有効性は高いと考える。今後は、各地区のリサイクルステーションの設置や運営方法の改善とごみの減量化に向けて、リサイクル推進のPRを引き続き積極的に推進されたい。

効率性については、資源ごみの回収に効果が得られる事業であると考えられるが、資源回収センターの利用拡大とリサイクルステーションの適正利用や民間（店頭回収）との連携強化により、さらにリサイクルの向上とコスト削減に努められたい。

目標の成果については、リサイクル率が伸び悩んでいると感じる。リサイクル率を高めるためには、資源ごみを焼却処理せずにリサイクルすることが必要である。そのためには、「分ければ資源、混ぜればごみ」という認識を持ってもらえるよう、

自治会などと連携し分別マナーの周知に努められたい。

今後の方向性としては、リサイクル推進の進捗管理の徹底と、年度ごとの計画の評価に基づく事業の見直しなどにより、掲げた目標値の達成に務めていただきたい。また、市民のリサイクルに対する更なる意識向上に向けわかりやすく継続的な周知と環境教育を行っていただきたい。